

宮坂昌之さん（64期）新刊 『新型コロナワクチン本当の「真実」』紹介

上原 昇（2組）

大阪大学招へい教授で免疫学の第一人者の宮坂昌之さん（64期）がコロナウイルス感染関係で話題の本を上梓しました。

『新型コロナワクチン 本当の「真実」』（講談社現代新書、21年8月20日発売）がそれです。宮坂さんのコロナ関係の本は、『免疫力を強くする』（19年12月刊）、『新型コロナ7つの謎』（20年11月刊）-いずれも講談社ブルーバックス-に続く第3弾です。我々高齢者は既にほとんどの人が、ワクチンの接種が終わっているかと思います。しかし、現在、コロナ感染者の増加は止まることを知りません。

この本では、ワクチンは本当に効くのか？ 本当に安全か？ 悪影響や副作用は出ないのか？ 等々の疑問に分かりやすく答えています。

非常に興味深いのは、「新型コロナウイルスの情報リテラシー」の章で科学的エビデンスに基づかない説がメディアを通じて流れていることに警鐘を鳴らしています。特に京大特定教授のK氏、京大准教授のM氏、白鷗大教授のO氏、元慶応大医学部講師のK氏、東洋医学専門医のU氏については、実名で批判しています。この本を見て、こうした人たちの反論も、（あれば）聞いてみたいです。

著者は、「おそらく、（コロナ）感染にはっきりとした収束傾向がみられるのは、ワクチン接種が国民の過半に及ぶ、今秋の終わりから冬頃になるでしょう」と記していますが、どうなるでしょうか。そうなって欲しいものです。

（21年8月20日記）

